

縄張図

## 牛瀧川を利用した城



静岡古城研究会作成『小笠町誌』より

堤城の築城時期は、明応・文亀年間（1492～1504）、または永正年間（1504～1521）と考えられている。今川氏の家臣・松井信薫が築城したが、二僕の城へ永正11（1514）年に移ったとされている。城域は東側の主曲輪をもつ範囲と西側の「城山」と称する部分で構成される。牛瀧川を巧みに城に取り込んで防御に利用したと考えられている。西側丘陵に松井信薫のものとする五輪塔がある。



アクセス  
JR 菊川駅から浜岡営業所行きバス「城山下」で下車  
東へ徒歩約1分  
駐車場、トイレ 無



堤城 西側登城口

# 堤城

縄張図

## 謎多き中世の城跡



関口宏行氏作成『横地城跡総合調査報告書』より

通称を松下城といい、地元では今川氏の家臣・松下嘉兵衛の城とする伝承がある。曲輪群と多くの堀切から構成された室町・戦国期の複合式の山城である。築城年代については不明であるが、室町時代中期頃の横地城の支城として機能したとされ、戦国期には陣城として改修されたと考えられている。標高72mの山上から、東方一帯を眺望できる。



アクセス  
JR 菊川駅から県道37号線を西に進み「堀田地内」を左折  
車約10分  
駐車場、トイレ 無



堀田城 主曲輪

# 堀田城

縄張図

## 中世遠江の名族・横地氏の本拠地

中世遠江国の名族、横地氏によって築かれた城である。文明8（1476）年に遠江に侵入した今川義忠との攻防の末に落城。その後は廃城となり現在に至る。曲輪、堀切、土塁などの中世山城の面影を色濃く残しており、国指定史跡となっている。標高101mの山頂からは、遠州灘を眺望できる。春には毎年桜まつりが催され、桜の花が山肌を染める。横地城周辺には居館・寺院も確認され、中世武士の空間形態が理解できる。



横地城周辺



横地城 登城口



横地城「東の城」堀切



横地城「東の城」主曲輪



アクセス  
JR 菊川駅から浜岡営業所行きバス「西横地」で下車  
東へ徒歩約40分  
駐車場、トイレ 有

# 横地城

縄張図



関口宏行氏作成『横地城跡総合調査報告書』より

アクセス  
JR 菊川駅から浜岡営業所行きバス「西横地」で下車  
東へ徒歩約40分  
駐車場、トイレ 有

# 横地城

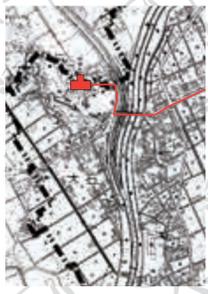
縄張図

## 徳川・武田攻防の最前線



静岡古城研究会作成『小笠町誌』より

獅子ヶ鼻岩は、高天神城を奪回するため徳川家康が天正8（1580）年に築いた六岩の1つであり、大須賀康高がこの岩を管轄していた。曲輪と堀切を巧妙に配置しているのが特徴である。特に主曲輪からは平野部を一望でき、交通の要衝に岩が立地していることを実感できる。冬季の晴天時には富士山を眺めることができる。



アクセス  
JR 菊川駅から浜岡営業所行きバス「平田」で下車  
西へ徒歩約30分  
駐車場、トイレ 有



獅子ヶ鼻岩 主曲輪

# 獅子ヶ鼻岩

配置図

## 受け継がれる代官屋敷



『黒田家住宅長屋門修理工事報告書』より

黒田代官屋敷は、永禄年間（1558～1570）黒田義則により現在地に居を構えた。義則は天正2（1574）年に武田勝頼が高天神城を攻めた際、城を守る一将であった。後に徳川氏の天下となり、旗本・本多氏の代官に任ぜられた。屋敷の周囲には堀が残っており、この堀は防御施設の役割と物資を運ぶために使われていた。敷地内には資料館があり、黒田家の貴重な所蔵品を見ることができる。



アクセス  
JR 菊川駅から浜岡営業所行きバス「平田本町」で下車  
西へ徒歩約10分  
駐車場、トイレ 有



黒田代官屋敷 水濠

# 黒田代官屋敷




菊川市教育委員会社会教育課文化振興係  
（菊川市埋蔵文化財センターどきどき内）  
〒437-1514 静岡県菊川市下平川618-1  
電話 0537-73-1137 FAX 0537-73-1138

# 菊川市の城館

## 周遊マップ



黒田代官屋敷

横地城

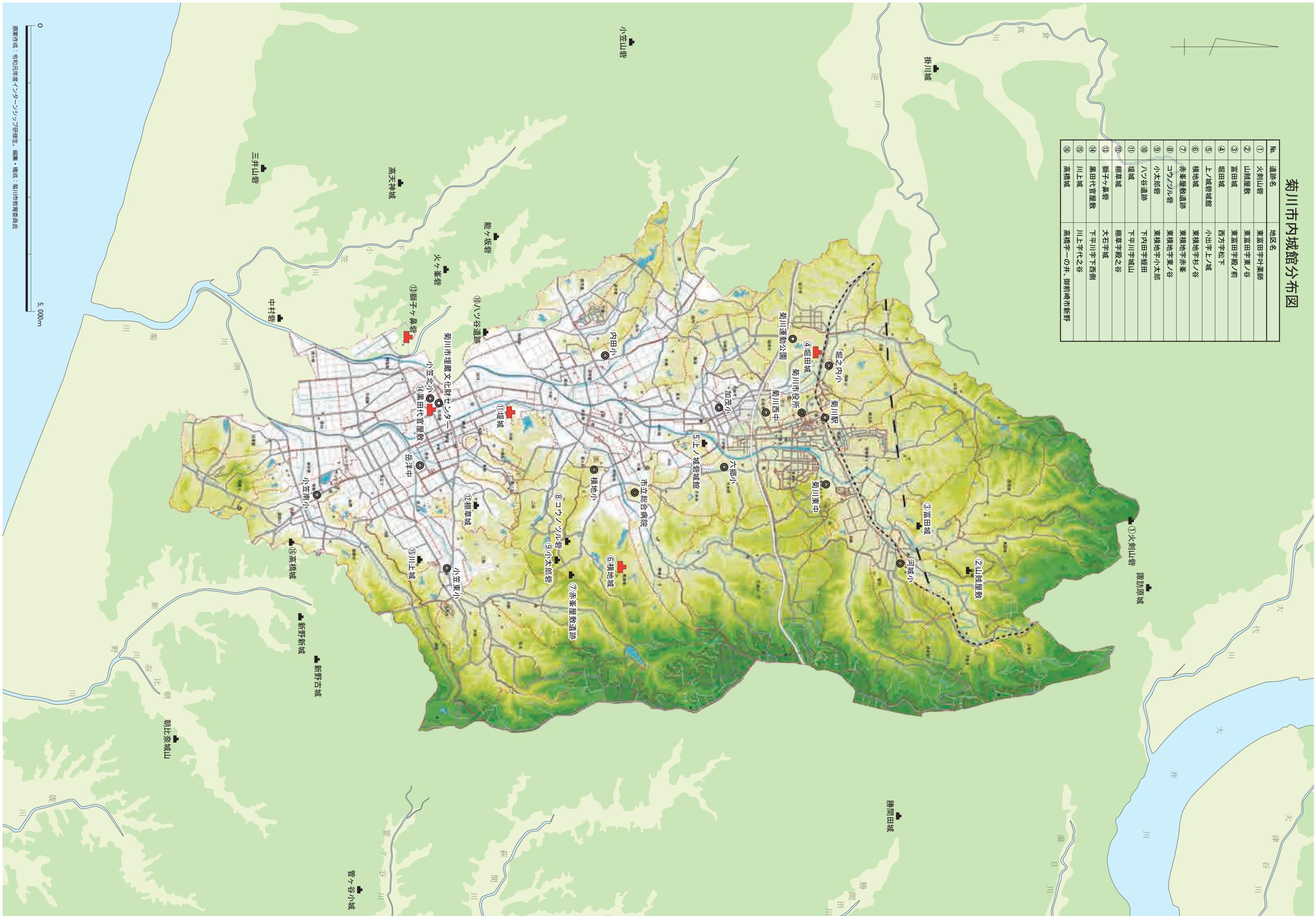
獅子ヶ鼻岩

堤城

菊川市埋蔵文化財センター

# 菊川市内城館分布図

No.	遺跡名	地区名
①	火剣山砦	東富田字叶葉師
②	山賊屋敷	東富田字東ノ谷
③	富田城	東富田字殿ノ前
④	堀田城	西方字松下
⑤	上ノ城砦城館	小出字上ノ城
⑥	横地城	東横地字杉ノ谷
⑦	赤峯屋敷遺跡	東横地字赤峯
⑧	コウノツル砦	東横地字東ノ谷
⑨	小太郎砦	東横地字小太郎
⑩	ハツ谷遺跡	下内田字窪田
⑪	堤城	下平川字城山
⑫	桐草城	桐草字殿之谷
⑬	獅子ヶ鼻砦	大石字城
⑭	黒田代官屋敷	下平川字下西側
⑮	川上城	川上字代之谷
⑯	高橋城	高橋字一の井、御前崎市新野



0 5,000m  
 原案作成：令和元年歴史マップ研究会、編集・構成：菊川市教育委員会